

血液内科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	新規疾患；TAFRO 症候群の疾患概念確立のための多施設共同後方視的研究
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 羽生田 正行
担当科等	血液内科
研究責任者	(職名) 助教 (氏名) 水野昌平
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	京都大学 新潟市民病院 岡山大学 名古屋大学 獨協医科大学 金沢医科大学 など 研究責任者 正木康史 (金沢医科大学)
研究の意義・目的	<p>多中心性 Castleman 病 (MCD) は、高γグロブリン血症、強い炎症反応、貧血および血小板増多などを特徴とする多クローン性のリンパ増殖性疾患 (LPD) です。</p> <p>欧米の MCD は、HIV 感染者に HHV-8 感染も関連して発症します。一方、本邦の MCD では HIV 感染や HHV-8 感染は稀であり、このことから欧米と本邦の MCD は異なった疾患と考えられています。</p> <p>しかし、IL6 過剰産生に基づく強い炎症所見は欧米および本邦の MCD に共通した所見です。</p> <p>2010 年に高井らは、TAFRO 症候群 (thrombocytopenia, anasarca, fever, reticulin fibrosis, organomegaly) という概念を報告しました。また、2011 年に Kojima らは、胸腹水と血小板減少を併発した本邦の MCD 患者を報告しました (Castleman-Kojima disease)。これらの症例は典型的な MCD や POEMS 症候群 (polyneuropathy, organomegaly, endocrinopathy, M protein, and skin changes)、リンパ腫および SLE などの自己免疫性疾患との鑑別が重要です。</p> <p>TAFRO 症候群に関しては、まだ新しい概念であるため、その発生率、症</p>

	候、臨床経過（治療反応も含む）などまだ不明な点も多く、そこで、今回は TAFRO 症候群の疾患概念の確立のために、まず本邦における TAFRO 症候群の発症につき全国的に一次アンケート調査を行い、その後に協力の得られる施設から後方視的にデータを収集することを目的としています。
対象となる患者さん	TAFRO 症候群、日本人の多中心性 Castleman 病、臨床的に多中心性 Castleman 病類似の強い炎症反応を呈した症例の患者さん
研究の方法	各施設の症例データを各施設担当者が調査票に記入し、事務局（金沢医科大学）へ電子メールあるいは CDR 郵送にて送り情報を収集し、統計学的に解析します。 年に 1 回病理中央診断会を行い、施設診断のみならず、中央診断を行った病理診断にて解析を行います。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2022 年 12 月 31 日
研究に用いる試料・情報	試料：リンパ節などの病理組織標本 情報：TAFRO 症候群や Castleman 病の鑑別に必要な血液データなど
外部への試料・情報の提供	試料：金沢医科大学 血液免疫内科学 情報：金沢医科大学 病理部
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。
その他	
問い合わせ先	愛知医科大学 医学部 血液内科 担当者：（職名）助教 （氏名）水野昌平 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1 電話 0561-62-3311（内線 23540）